

## 県外派遣報告書

審判員名	土屋 友由	所属	社会人連盟
大会名	2019年度（一社）日本社会人バスケットボール連盟 関東ブロック審判研修会		
期間	2019年 8月 17日 ～ 8月 18日		
会場	所沢市民体育館		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
8月17日	座学講習（3POベーシック、プレイコーリングガイドラインについて）	所沢市民体育館 2階会議室	
8月18日	実技講習（東京都オープンリーグ男子1.2部にて）	所沢市民体育館	
会議 講義 内容			
<p>3POベーシックについて（講師：針生 淳男氏（本部：東京都S級審判員））</p> <p>講義では、JBAが出している3POBasicのPPTを用いて、講義が進められました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず初めに「メカニクについては、クレー間で齟齬があってはいけない」というお話がありました。これは判定に関するミスの多くは、クレーのメカニクに起因していることからPGCで出来るだけ多くの情報を共有し、できる限りクリアにした状態でゲームに臨んでほしいという話でした。</li> <li>・エリア/アングルの分担：プライマリーの理解             <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 1 vs 1 2 vs 2などのマッチアップには表と裏があることを常に意識すること。自身のプライマリーエリアではないので判定しない（確認しない）ということではない。常にボールを見なさいというわけではないが、プレーの展開によっては、トレイルのプライマリーエリアでは起こっているスクリーンプレーをセンターやリードがヘルプするケースもあるので、どんなプレーが起きているのかを知っている必要がある。</li> </ul> </li> <li>・リードメカニクスについて             <ol style="list-style-type: none"> <li>①T→Lへのトランジション：顔はコートに向けたままにすることを忘れない</li> <li>②ボールサイド/ストロングサイドの見極めも大切だが、リードは早めのローテーションを心掛けること。</li> <li>③ノッキングはクレー全体のリズムを崩し、クレーワーク（ノッキングしたレフリー自身）に大きな影響を及ぼすことがあるので注意すること。</li> <li>④ミッドラインを超えていたら、ローテーションを完成させること。必要に応じ、再度ローテーションを起せばよい。</li> <li>⑤ショットクロックが残り5秒を切っていたら、ローテーションはしない。EOQ、EOGではこの限りではないので認識を間違えないようにすること。</li> <li>⑥3Pのpeek。Flashについては確認できたら積極的にあげること。（トランジションからのサドンショットについてはニュートレイルが間に合わないことがあるので、積極的に確認すること）</li> </ol> </li> <li>・トレイルメカニクスについて             <ol style="list-style-type: none"> <li>①バックコートでは、必ずボールの後ろから追従すること。プレーとの距離に注意してよいアングルを確保する。</li> <li>②3Pライン付近でのプレーについては、プレーの状況に合ったCrossStepを活用し、アングルを確保すること。</li> </ol> </li> <li>・センターメカニクスについて             <ol style="list-style-type: none"> <li>①ワーキングエリア：フリースローラインの延長線上をセットアップポジションとして、フリースローサークル間でポジションアジャストする。</li> <li>②CtoC Run ※バックコートでプレスが無い時</li> </ol> </li> </ul>			

③バックコートからフロントコートへCサイドでのボールエントリー時、センター主導でのローテーションはない。必ずリードがローテーション完了させてからトレイルになるので、ハイセンターのポジションでプレーに対し、アングルを確保する。

④センターが決断すべきプレーで決断し切れない（判定出来ない）要因は、ボールをチェックアウト出来ない（プアメカニクス）に起因していることが多い。

・3PO全体のカバレッジについて

①ミッドライン（ペイントエリア内）を直進するドライブについて、基本はLだが、状況によってはストロングサイド：L、ウィークサイド：Cのプライマリー意識を持つこと。ダブルコールは致し方無い時もあるが、必ずプライマリーテイクを。

②リバウンドでは必ず1人のレフリーが1～2ペアを持つように。トレイルも積極的に参加すること。

③アウトオブバウンズ：3POの場合、オフボールに目を当てており、咄嗟に分からなくなってしまうケースがある。分からなかったらボディランゲージでもよいので、分からないことをクルーに伝える。

→訂正をするクルーは笛を鳴らしてから歩み寄り、プライマリーのレフリーが訂正する。

④EOQ.EOGではショットクロック成立と、ゲームクロック終了のどちらが早いかを常に意識してオンザコートに立つこと。

⑤時限の終わりの管理：残り時間5秒以上あるときはオポジットのレフェリーがラストショットの担当。バックコートで攻守が入れ替わり残り時間5秒未満の時はセンターレフェリーが担当する。

⑥クルーの連携：ワーニングの伝達、ファウル後のシューターの確認、チームファウル/個人ファウルの把握、クロックの管理

プレイコールガイドライン0801について（講師：北沢 岳夫氏（本部：岩手県S級審判員））

講義では、JBAから出ているプレイコーリングガイドライン0801の動画を全体で確認し、受講生の意見を聞きながら、動画のプレー（判定）だけでなく、その時のメカニクスやクルーで気にすることなどを講師より解説いただきました。

・悪い手の整理：とにかく始まりを把握すること。アクション・リアクションを判断して瞬間的にコールする。

・イリーガルスクリーン：ボールが進行していく中でトレイル/センターの間で起こることがある。咄嗟にダブルホイッスルでなってしまうことは仕方がないが、必ずダブルホイッスルの場合は、(1)ホールド (2)プライマリーレフリーが示す（プライマリーテイク）をする。

・ブロックオアチャージ：オフェンスに明らかな責任がない大きな触れ合いはディフェンスファウルであることを強く意識して判定すること。

・プロテクトシューター：ディフェンスプレーヤーに悪気がない触れ合いもあるが、シューターにとっては大きな怪我につながる恐れがあるので、コール。小さな触れ合いでも影響が大きくなることを忘れてはいけない。

・UF（C2）：ポンプフェイクに引っかかってしまったプレイヤーの触れ合いが全てC2になる訳ではないので、プレーがどうなったのかを見極めて判定することが大切。

・TF：振る舞いに対しては普通のファウルをコールすると同様に冷静に判断してコール。TFをコールされたプレイヤーやコーチは、自覚があるプレイヤーばかりなので、基本的には相対せずコールした方がよい。

#### 実技

	期 日	8/18/19		東京都リーグ男子1部	
担当試合	対戦カード	花王	V S	ANA	U1
	相手審判	CC：岩淵 健介氏（神奈川県B級）		U2：金子 航氏（千葉県B級）	
ミーティング内容				主任	北沢 岳夫氏（本部：岩手県S級）

クルー全体へのミーティング内容

- ・クルー全員、アスレチックに動き判定していたのは良かった。
- ・良い判定（コール）しているケースが多くあるが、プレゼンテーション（レポートが早いや、マニュアルにない余計な動作があるなど）が残念な時があるので、ゲーム中は常にプレゼンテーションも意識出来ると良い。

個人へのミーティング内容

- ・終始、CCメンタリティ（声を使ったレフリング、チームファウルの共有etc）を発揮していて良かった。
- ・ゲームの中で、何気なくしてしまうポジション、ローテーションがあるので更に工夫出来ると良い。

全体の感想

今回、JSB関東ブロック審判研修会に参加させていただきありがとうございました。研修会2日目の実技研修ではクルー全員が同世代で初めて試合を運営させていただき、3人で出来たこと、出来なかったことが如実に出るゲームであり、とても貴重な経験をさせていただきました。今回の研修を通して、改めて判定力の重要性和それを維持するためのベーシックな動き及びメンタリティが必要だと感じましたので、今後の審判活動にて改善できるよう努力していきたいと思えます。

最後になりましたが本研修会期間中、東京都バスケットボール協会社会人連盟及び所属審判員の皆様には細部にわたるまでご配慮いただきありがとうございました。また派遣していただきました埼玉県バスケットボール協会の皆様、講師の皆様、お世話になりました関東社会人連盟所属審判員の皆様、本当にありがとうございました。今回得た経験を今後の自身の研鑽に繋げるとともに、県内審判員に還元できるよう精進してまいります。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

~~注) この報告書は、あくまでもベースです。加工して皆さんにわかりやすく報告することに  
問題はありませぬ。写真、図等を差し込むこともいいことだと思えます。~~